



第19回常任理事会

日時 平成28年12月13日(火)18:00～20:42
場所 北海道医師会館9階・理事会室
出席者 長瀬会長、深澤・藤原・小熊各副会長、北野・三戸・目黒・藤井・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒・林・笹本・櫻井各常任理事、藤瀬・篠島各監事
 (事務局：安達局長ほか12名)

協議事項

第1号 平成28年度会費減免の追加申請に関する件 (三戸常任理事)

道医会費減免申請者は一般免除者2名、研修医免除者19名の計21名で免除額308,000円を承認し、次回理事会、来年3月12日(日)開催予定の第148回臨時時代議員会に諮ることと決定。また、日医会費減免申請者として、高齢免除者1名、一般免除者2名、研修医免除者17名の計20名の免除額111,000円を日医へ申請することと決定。

第2号 国民健康保険診療報酬審査委員会委員の推薦に関する件 (橋本常任理事)

現委員の任期が本年12月末日で満了となる「保険医を代表する委員」について、関係郡市医師会、専門医会から推薦のあった保険医代表40名(委嘱時70歳未満)を北海道知事に推薦することと決定。

第3号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件 (櫻井常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座26件、道医認定生涯教育講座30件、合計56件を承認。

第4号 平成29年新年交礼会〔1月6日(金)〕の開催に関する件 (三戸常任理事)

来年1月6日(金)午後6時30分から札幌グランドホテルで開催することと決定。

第5号 医療法人の役員賠償責任保険に関する件 (岡部常任理事)

本年9月の第7次改正医療法の施行により、医療法人制度の見直しが実施されることに伴い、医療法人理事等の損害賠償責任に対応する保険制度を創設することと決定。

第6号 北海道医師会職員育児・介護休業等規程並びに職員就業規則の一部改正に関する件

(三戸常任理事)

育児・介護休業法ならびに男女雇用機会均等法の改正法が、来年1月1日から施行されることに伴い、当会就業規則等の一部改正を行うこととし、次回理事会に諮り、札幌中央労働基準監督署に提出することと決定。

第7号 第5回理事会〔12月17日(土)〕の議案に関する件 (三戸常任理事)

12月17日(土)午後4時から札幌パークホテルで開催する理事会の提出議案を決定。

第8号 その他

- (1) 平成29年1月行事予定に関する件 (事務局)
- (2) 平成29年度予算関係三役・担当部長会議の日程に関する件 (事務局)

報告事項

1. 患者接遇に関する研修会〔平成28年度〕について (岡部常任理事)

本年度は「患者コミュニケーションレベルアップのための傾聴トレーニング」をテーマに、新たに株式会社ムトウの齋藤氏を講師に迎え、道内4ヵ所で地元医師会の協力のもと開催した。実践形式のワークを交えた研修内容で、各会場とも参加者は熱心に受講していた。受講者は、函館市67名、岩見沢市37名、釧路市80名、千歳市61名の245名であった。

2. 臨床研修医との懇談会〔11月9日(水)・釧路市〕について (櫻井常任理事)

釧路市医師会の協力のもと、釧路労災病院、市立釧路総合病院、釧路赤十字病院、釧路孝仁会記念病院からの臨床研修医と合わせて、当該病院関係者と同医師会役員等合計25名が参加し懇談を行った。小熊副会長より「医療の現状と課題」、小職より「日医かかりつけ医研修制度」について、それぞれ情報提供した後、質疑応答を交え、現在の臨床研修制度への感想・課題等について、臨床研修医等との活発な意見交換が行われた。

3. 日医生涯教育協力講座セミナー「認知症に寄り添う」〔11月12日(土)〕について (小熊副会長)

当会・日医・第一三共の共催で開催した。東京都健康長寿医療センター研究所・栗田研究部長から「認知症とともに暮らせる社会に向けて」と題し、基調講演が行われた。続いて「自分らしく暮らし続けるために」をテーマとした特別講演に移り、砂川市立病院認知症疾患医療センター・内海センター長、砂川市立病院認知症疾患医療センター・福田認知症看護認定看護師、亀田病院分院亀田北病院認知症疾患医療センター・谷内センター長より、認知症の地域連携、多職種連携、高齢者(認知症を含む)の自動車運転について、それぞれ講演が行われた。その後、パネルディスカッションが行われ、フロアとの活発な意見交換が行われた。参加者は医師をはじめ介護

士、看護師等120名であった。

4. 第44回日本救急医学会総会・学術集会 [11月17日(木)～19日(土)・東京都] について

(目黒常任理事)

日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野・高度救命救急センター長・横田教授が会長となり「挑戦」をテーマに開催された。会長講演、特別講演、教育講演、専門医共通講習、救急科領域講習、ICLSブラッシュアップセミナー、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、挑戦セッション、特別セッション、一般演題等が行われた。参加者は約5,800名であった。今回は、来年10月24日(火)～26日(木)に大阪市で、大阪大学大学院医学研究科・救急医学・嶋津教授が会長となり開催予定。

5. 「地域包括ケアシステムの構築の推進に向けた取組」第4回シンポジウム [11月19日(土)] について (藤原副会長)

当会、北海道歯科医師会、北海道薬剤師会、北海道看護協会が共催し「おたる地域包括ビジョンの取組」をテーマに開催した。今回は、北海道歯科医師会が担当し、小樽市医師会・菅田理事からおたる地域包括ビジョン協議会の活動報告のほか、歯科医師・薬剤師・看護師・地域包括支援センター管理者による講演があり、意見交換を行った。参加者は140名であった。

6. 臨床試験講習会 [11月23日(水・祝)] について (櫻井常任理事)

日医設置の治験促進センターが臨床試験を適正に行える医師を養成するため、臨床試験、研究を広く知らしめることを目的とした臨床試験(治験を含む)に関する講習会を、当会・日医・臨床試験医師養成協議会の三者の共催により当会館で開催した。講演(1)「臨床研究をするときに知っていなければいけないこと(倫理性)」と題して昭和大学医学部薬理学講座の内田教授、(2)「わかりやすい臨床試験の計画と実施～本当に介入研究の勉強は観察研究実施に役立たないのか?～」と題して臨床試験医師養成協議会の松本理事(聖マリアンナ医科大学薬理学講座教授)から解説があり、ついでパネルディスカッション「わかりやすい臨床研究の進め方」と題して、北海道大学臨床研究開発センター長の佐藤教授、札幌医科大学附属病院治験センターの枝長副センター長、旭川医科大学病院臨床研究支援センターの松本副センター長からそれぞれの取り組み等が解説された後、質疑応答を行った。参加者は28名であった。

7. 第13回がん政策サミット2016秋 [11月25日(金)～27日(日)・東京都] について (伊藤常任理事)

「地域別・がんの部位別対策で、がん死亡率の減少目標を達成しよう」をテーマに開催された。国の第2次がん計画中間報告で死亡率の減少の目標が未達の見込みであることを受け、地域別・がん部位別

にデータに基づいた戦略的なアクションプランの策定を試みた。北海道からは「六位一体」協議会のメンバーである12名が参加し、がん死亡率全国ワースト2位の北海道においてはすべてのがん種への対策が急がれるものの、特に肺がん対策を優先させることで話し合いが行われた。今回の学びを参考に、今回の北海道サミット開催へ向けて北海道チーム全員で一致団結して準備を進めていくことを確認した。

8. 全国医師会勤務医部会連絡協議会 [11月26日(土)・大阪市] について (藤井常任理事)

大阪府医師会の担当で「2025年問題と勤務医の役割」をメインテーマに開催された。午前は特別講演2題があり、日医・横倉会長からは「地域包括ケアと病院の関連(あり方)について」と題して、各地で構築されつつある地域包括ケアシステムには病院勤務医にも大いに関係があり、普段から地域の医師、診療所や他の病院、さらには介護・福祉サービス関係者との連携が一層求められ、勤務医には医師会活動を通じて地域の他の医療機関で働く人たちとの関係づくりが重要であるとの講演があった。続いて、厚労省保険局・迫井医療課長から「地域医療構想について」と題した講演、日医勤務医委員会報告、午後からはシンポジウム2題があった後、おおさか宣言を採択した。参加者は411名であった。今回は、来年10月21日(土)に札幌市で開催予定である。

9. 自賠責保険研修会 [11月26日(土)] について (橋本常任理事)

日本損害保険協会の自賠責保険運用益拠出事業の一環として、当会・日本損害保険協会北海道支部・損害保険料率算出機構札幌自賠責損害調査事務所の三者共催で開催した。学術講習と自賠責講習の二部構成で行い、学術講習では北海道大学大学院保健科学研究院機能回復学分野の遠山教授より「膝重度複合靱帯損傷の病態と治療」、自賠責講習では損害保険料率算出機構札幌自賠責損害調査事務所・遠山医調課長より「自賠責保険の仕組みについて」解説がなされた。参加者は79名(医師5名、請求事務担当者74名)であった。

10. 保健・医療・福祉サービス研究会「政策研究集会」 [11月27日(日)・東京都] について

(笹本常任理事)

「世界一の累積債務残高と超少子高齢社会をどう克服し、大切な社会保障制度をどう守るか? 2020年PB黒字化に向け進む安倍政権の経済・財政再生計画(改革工程表)と2018年同時改定を読む」をテーマに開催された。財務省主計局・八幡主計企画官、慶應義塾大学経済学部・土居教授、厚生労働省・鈴木保険局長より講演が行われた。引き続き行われた「どうなる2018年医療介護の制度・報酬改革とそのゆくえ」をテーマとしたシンポジウムでは、慶應義塾大学経済学部・土居教授を座長とし、日医・鈴木常任理事、日本慢性期医療協会・武久会長、キヤノン

グローバル戦略研究所・松山研究主幹の3名のシンポジストより発表があり、総合討論が行われた。

11. 地域医療を担う青少年育成事業【平成28年度】について（櫻井常任理事）

本事業は、道内各地における医師不足や偏在の現状を踏まえて、将来の地域医療を担う人材を育成することを目的として、平成24年度より北海道・北海道教育委員会・当会が連携し、開催地市町村・教育委員会の共催と地元医師会の後援、株式会社ムトウの協力を得て開催している。本年度は、美幌町、常呂町、厚真町、厚岸町の4地区において、昼間部は対象者を中学生に講演（テーマ：夢を育てよう）と医療機器・検査機器等に直接触れる医療体験学習を実施し、夜間部は会場を移して住民等を対象に医療講座（テーマ：地域の医療を考える）を開催した。講演と実技指導は、当会・長瀬会長、小熊副会長、橋本常任理事（厚真町）、小職、地元医療機関や消防機関の関係者の協力を得て実施した。なお、本年度は北海道保健福祉部・村木部長（厚真町）、北海道教育委員会・柴田教育長（厚岸町）も出席した。参加者は延べ383名であった。また、本事業により地元若者の医療関係職種への動機づけと地元行政や住民の地域医療への意識の向上につなげていくために、事業内容を拡充し、来年度以降も継続していく予定である。

12. 都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会【12月1日（木）】について（水谷常任理事）

日医医師賠償責任保険の運営に関する経過報告の後、岩手県医師会から医療事故紛争対策と活動状況について報告があった。続いて、日医・市川常任理事から医事紛争における日医医師賠償責任保険制度の役割と特徴について解説がなされた。最後に、日医・今村常任理事から医療事故調査制度の最近の動きについて説明があった。

13. 第16回医療フォーラム【12月1日（木）・東京都】について（笹本常任理事）

「どうする、日本の医療『経済財政運営と社会保障制度改革』」をテーマに、内閣官房健康・医療戦略室/まち・ひと・しごと創生本部事務局・大島次長より「持続可能な医療制度に向けて」、日医・横倉会長より「日本医師会の医療政策」、自由民主党参議院議員/内閣総理大臣補佐官・衛藤氏より「地域包括ケアシステム構築に向けた医療・介護の連携」、経済財政諮問会議議員/サントリーホールディングス株式会社・新浪代表取締役社長より「経済財政一体改革で進める医療改革」、日本歯科医師会・山本会長より「社会保障制度と薬剤師」をテーマに講演が行われた。参加者は約300名であった。

14. 日医大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会【12月2日（金）】について（藤井常任理事）

「よりよい男女共同参画を目指して」をテーマに開催された。日医の女性医師支援に関する取り組みについて説明の後、各大学等の取り組みについて、

北海道大学からは、北大病院女性医師等就労支援室で行ったアンケート結果から、病児保育の必要性和、次世代のワークライフバランスについて報告があり、男性も育児休暇を希望し、男女ともに仕事と家庭のバランスを重視する傾向にあるとの解説がなされた。その他、和歌山県立医科大学、日本産科婦人科学会、日本耳鼻咽喉科学会より取り組み事例の発表が行われた後、意見交換を行った。参加者は、大学および学会の関係者の他、都道府県医師会の担当役職員を含め249名であった。

15. 日医家族計画・母体保護法指導者講習会【12月3日（土）】について（三戸常任理事）

本講習会は、母体保護法指定医師に必要な家族計画ならびに同法に関連する最新知識について講習を行い、母体保護法の運営の適正を期することを目的に例年開催されている。「地域医療構想に向けての医師会の取り組み」と題した日医・中川副会長の講演に続き、シンポジウム「周産期医療体制の確保に向けて」をテーマとして、周産期医療体制の現状、専門医の仕組み、産婦人科医師の地域偏在、診療科偏在、最近の母子保健行政の動き―子育て世代包括支援センター等―についての発表・指定発言ならびに討議が行われた。参加者は185名であった。

16. 北海道在宅医療介護連携推進セミナー【12月3日（土）】について（藤原副会長）

北海道医療ソーシャルワーカー協会が主催し「在宅生活に結びつけるための病院と在宅医療との連携～退院支援における課題と解決策～」をテーマに開催した。北海道保健福祉部地域医療推進局・大竹地域医療構想担当局長から、在宅医療に関する北海道の施策について講演があり、その後「退院前後の病院と在宅支援との連携課題と解決策を考える」をテーマに医師・MSW・ケアマネジャー・看護師によるシンポジウムを行い、小職が医師の立場から、法人の在宅支援と地域連携について講演した。参加者は193名であった。

17. 第4回北海道DPC研究会秋期講演会【12月3日（土）】について（笹本常任理事）

北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課・石井医療参事の「北海道の地域医療構想」と題した基調講演の後、厚生労働省保険局・迫井医療課長（前地域医療計画課長）が「地域医療構想がめざすもの」をテーマに講演が行われた。

18. 医療機関経営セミナー【12月3日（土）】について（岡部常任理事）

医療機関経営に係る税制・税務について理解を深めていただくことを目的に、当会・日医・TKC医業・会計システム研究会の3者共催によるセミナーを開催。「医療と消費税、医療法人の事業承継税制」と題し、日医・今村副会長から税制改正要望や持分なし医療法人への移行について、「クリニックの事業承継について」と題し、TKC医業・会計システム

研究会青木税理士から、一人医療法人の事業承継を中心に講演があった。参加者は37名であった。

19. 勤務医部会全体会議 [12月4日(日)] について (藤井常任理事)

本年度設置した若手医師専門委員会と勤務医関連会議ならびに勤務医懇談会について報告の後、地域医療の現況について、本年5月に実施した現況調査結果から、勤務医の労働時間と時間外診療について、勤務医の現況と勤務環境の改善～時間外・専門外の救急患者について、勤務医の労務管理について～時間外労働と法規的認識について報告した。その後、活発な意見交換が行われ、最後に提言を採択した。また、全体会議終了後に、運営委員ならびに若手医師専門委員の打合せを行い、来年度に開催を予定している全国医師会勤務医部会連絡協議会のプログラムの検討を行った。

20. 救急医療対策部会第1回小委員会 [12月4日(日)] について (目黒常任理事)

当会救急医療部関連事業として、小児救急医療地域研修会の開催状況や平成28年熊本地震における対応などについて報告した。また、当会が事務局を担当している団体の活動として、第30回記念北海道マラソン2016における救護活動、北海道救急医学会学術集会の開催状況、メディカルウイングの本格運航を目指す道民集会の開催状況について、併せて報告した。その後、来年1月29日(日)に開催予定の救急医療対策部会全体会議の内容と進行について協議した。

21. 第13回北海道地域連携クリティカルパス運営協議会 [12月5日(月)] について (橋本常任理事)

あんしん連携ノート運用状況等について報告があった後、本協議会の安定的運営を図るべく、NPO法人化へ向けて協議を行った。名称を、北海道医療介護連携ネットワーク協議会とし、地域医療介護連携を幅広く推進することを目的として、設立に向けて準備を進めることとなった。

22. 日医医療事故調査制度に係る「支援団体統括者セミナー」前期 [12月7日(水)] について

(水谷常任理事)

本研修は、院内事故調査を行うための知識および技能の習得に加え、医療事故調査制度を牽引する各地域のリーダー役を養成し、その結果、標準的な考え方や調査方法が各地域に普及されていくことを目的に開催された。参加者は、各都道府県における支援団体の取りまとめと院内調査の支援などに直接かわかる者で、当会からは、①都道府県医師会の役員として小職、②基幹病院などの代表者として小熊副会長、③地域の看護職の代表者として北海道看護協会の人選により札幌医科大学附属病院医療安全部・佐々木副部長の3名が出席した。参加者数は129名で、来年2月23日に開催される後期にも同一参加者が出席することが必須となっている。

23. 第2回クラウド型救急医療連携支援事業運営協議会 [12月8日(木)・旭川市] について

(長瀬会長)

モバイル端末を利用し、事前に患者の症状を搬送先の病院へ画像送信(症例数10件)することにより、患者到着までに一次診断から手術の準備を行うことができることから、治療開始までの時間を大幅に短縮できるとの報告があった。また、本事業への参加者に行ったアンケート結果では情報共有のハードルが下がった、情報共有のツールとしては有益であるとの回答が多かった一方、業務負担の増減については、変わらないとの回答が多かった。

24. 外部各委員会報告

(1) 第2回北海道地域医療介護総合確保基金(介護分)検討協議会 [11月10日(木)] について

(藤原副会長)

事務局から来年度に係る事業提案に対する対応と基金事業の説明があり意見交換を行った。その後、本協議会に事務局より新たにリハビリテーション職(北海道リハビリテーション専門職協会)と北海道薬剤師会を加えることの提案がありました承された。

(2) 北海道障がい者施策推進審議会 [11月16日(水)] について (藤原副会長)

会長に小職が選出され、事務局から第4期北海道障がい福祉計画の進捗状況ならびに意思疎通支援部会の検討経過の報告があった。その後、医療的ケア児支援部会(仮称)の設置について協議し了承された。引き続き、障がい者に関するマークの普及について意見交換を行った。

(3) 北海道感染症危機管理対策協議会感染症流行調査専門会議 [11月25日(金)] について

(三戸常任理事)

「委員会」から「会議」へ名称変更したことに伴う運営要領改正の説明があり、その後、座長に札幌医科大学・堤委員が選出された。引き続き、二類～五類感染症および性感染症とインフルエンザの発生状況の報告があり、意見交換を行った。

(4) 北海道医療審議会 [12月9日(金)] について (小熊副会長)

会長に当会・長瀬会長、会長代理に当会・深澤副会長が就任。さらに医療法人部会と地域医療部会の各委員の会長指名の後、社会医療法人関係と地域医療連携法人関係を新たに盛り込んだ当審議会運営要綱について協議を行い、北海道地域医療構想の策定について報告を受けた。(12月13日、長瀬医療審議会会長より高橋知事へ答申)

25. 外部報告

(1) 当会の医療事故調査等相談窓口対応状況について (水谷常任理事)

11月8日から12月12日までに、標記相談窓口において当番の役員が直接対応した案件が無かったことを報告した。

26. その他

(1) 会員数について（三戸常任理事）

平成28年12月1日現在の道医会員数は、8,368名で、内訳はA会員2,461名、B1会員599名、B2会員4,668名、C1会員108名、C2会員142名、C3会員390名となっている。なお、日医会員数は、5,895名となった。

道総医協関連事項（深澤副会長）

1. 地域保健専門委員会第1回糖尿病対策小委員会 [11月24日(木)] について（岡部常任理事）

二次医療圏域における糖尿病医療連携の推進について、各圏域の糖尿病地域連携パスの導入状況等の報告があったほか、糖尿病地域連携パスの導入が進んでいない圏域の医療機関を対象とした糖尿病連携手帳に関する普及啓発について協議を行った。

2. 地域保健専門委員会第2回糖尿病対策小委員会 （慢性腎臓病対策連絡会議）[11月24日(木)] について（岡部常任理事）

北海道における透析患者の状況、糖尿病性腎症重症化予防プログラムの取り組み状況、糖尿病重症化予防（慢性腎臓病）対策実施状況について報告があった。その後、慢性腎臓病対策事業実施要綱に基づき実施されている慢性腎臓病市民講演会および世界腎臓デー啓発パネル展についてそれぞれ報告と協議を行った。

第5回理事会

日時 平成28年12月17日(土)16:00～18:00
場所 札幌パークホテル 地下2階「パークプラザ」

出席者 長瀬会長、深澤・藤原・小熊各副会長、北野・三戸・目黒・橋本・水谷・山科・岡部・生駒・笹本各常任理事、松家・佐藤・恩村・阿久津・沖・倉増・山下・稲葉・久島各理事、津田・藤瀬・篠島各監事、宮本参与、本間議長・稲川副議長（日医オブザーバー）鈴木委員、藤根委員、太田委員、上埜委員
（事務局：安達事務局ほか15名）

1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 報告事項

(1) 日医理事会報告（長瀬会長）

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会熱中症等対策に関する要望の件等につき報告があった。理事会の詳細については日医ニュース等を参照されたい。なお、事前の理事打

合会において、医療事故を繰り返す会員への指導について、議事運営委員会決定事項一部改正について等の意見交換を行った。

(2) 日医各委員会報告

1) 日医各委員会の諮問事項等について

（三戸常任理事）

日医各委員会の担当委員および会長諮問等の一覧について報告した。

2) 日医医療情報システム協議会運営委員会[10月13日(木)] について（藤原副会長）

日医・石川常任理事から近況報告後、来年2月11日(土)・12日(日)に開催する日医医療情報システム協議会のプログラム(案)、座長、参加者アンケート(案)、ロビー展示等について協議した。なお、来年度は当会が担当である。

3) 広報委員会[10月13日(木)] について

（山科常任理事）

委員長に栃木県医師会・小沼常任理事、副委員長に兵庫県医師会・橋本常任理事と京都府医師会・城守常任理事が指名され、日医広報活動報告の後、心に残る医療一体験記コンクールと生命を見つめるフォトコンテストの審査員やスケジュールについて協議した。

4) 母子保健検討委員会[10月26日(水)] について（三戸常任理事）

委員長に国立成育医療研究センター・五十嵐理事長、副委員長に熊本県医師会・福田会長が指名され、会長諮問「新しい子育て支援の在り方についてー日本医師会の立場からー」について、来年2月19日(日)に開催する母子保健講習会について協議した。

5) 救急災害医療対策委員会[11月4日(金)] について（目黒常任理事）

委員長に独立行政法人労働者健康安全機構・有賀理事長、副委員長に東京都医師会・猪口副会長と新潟県医師会・小池副会長が指名され、平成27年度版救急救助の現況や都道府県医師会JMAT担当理事連絡協議会などについて報告があった後、会長諮問「地域の救急災害医療におけるかかりつけ医の役割～地域包括ケアシステムにおける災害医療を中心に～」 「JMAT活動の課題と対策～コーディネーター機能を中心に～」について協議した。

6) 医師会共同利用施設検討委員会[11月4日(金)] について（伊藤常任理事）

委員長に佐賀県医師会・池田会長、副委員長に埼玉県医師会・利根川常任理事が指名され、会長諮問「2025年を見据えた医師会共同利用施設の展開 ～健康寿命の延伸に向けた新たな取組と地域における役割～」について協議した。

7) 医療関係者検討委員会 [11月24日(木)] について (北野常任理事)

委員長に大分県医師会・近藤会長、副委員長に鳥取県医師会・清水副会長が指名され、会長諮問「医師及び医療関係職種のメディカルコントロールについて」「看護職養成課程の在り方について」協議した。なお、平成28年医師会立助産師・看護師・准看護師学校養成所調査結果について、今年度は准看護師課程が3校募集を停止したこと、看護師3年課程においても応募者の減少が続いていることの報告があった。看護系大学、3年課程養成所が増加しており、全体としての養成数が増えることは良いが、その一方で、地域に根ざした医師会立看護師養成所が生徒の確保に苦慮する状況では、地域の看護職員の確保が困難になる恐れがあり、引き続き、超高齢社会における看護職の必要性和医師会立養成所の魅力を発信していく必要があるとの説明があった。

8) 産業保健委員会 [12月1日(木)] について (生駒常任理事)

委員長に北里大学・相澤名誉教授、副委員長に岡山県医師会・石川会長と産業医科大学・堀江教授が指名され、厚労省の第7回産業医制度の在り方に関する検討会について報告があった。会長諮問「医療機関における産業保健活動推進のための具体的方策－医療の質と安全の向上を目指して－」について、産業医活動ならびにストレスチェック制度に関するアンケート調査、医療機関における産業医活動の推進についての提案をテーマに協議した。

9) 有床診療所委員会 [12月1日(木)] について (林常任理事)

委員長に徳島県医師会・齋藤会長、副委員長に奈良県医師会・山岸代議員会副議長が指名され、会長諮問「次期医療計画及び介護保険事業（支援）計画に向けた有床診療所のあり方 ～医療及び介護の一体的推進に向けて～」について協議した。なお、日医・鈴木常任理事より、厚労省の医療計画の見直し等に関する検討会で示された次期医療計画における基準病床数の算定の考え方について（案）、診療所に設置する一般病床に係る特例とその対応（案）と有床診療所の病床機能と役割等に関するデータ等、そして有床診療所の診療科の構成について説明があった。

10) 医療安全対策委員会 [12月2日(金)] について (水谷常任理事)

委員長に広島県医師会・平松会長、副委員長に福岡県医師会・上野副会長が指名され、

会長諮問「医療事故調査制度における確実な院内事故調査を担える人材育成のあり方について」協議した。

11) 社会保険診療報酬検討委員会 [12月7日(水)] について (橋本常任理事)

委員長に栃木県医師会・太田会長、副委員長に大阪府医師会・高井副会長が指名され、会長諮問「平成28年度診療報酬改定の評価」「基本診療料のあり方」のうち、平成28年度診療報酬改定の評価については次期改定に向け早急にとりまとめを行う必要があることから、各郡市・医育機関医師会の意見をとりまとめ、それを集約した上で意見提出する予定である。

12) 男女共同参画委員会 [12月9日(金)] について (藤根委員)

委員長に大湯リハビリ温泉・小笠原病院長、副委員長に鹿児島県医師会・鹿島理事が指名され、会長諮問「医師会組織強化と女性医師」について協議した。なお、女性医師支援センター事業の体制を変更したことの報告があり、今期は女性医師の勤務環境の現況に関する調査を実施し前回調査と比較することになった。

13) 地域医療対策委員会 [12月14日(水)] について (笹本常任理事)

委員長に千葉県医師会・田畑会長、副委員長に山形県医師会・中目副会長と京都府医師会・松井副会長が指名され、会長諮問「地域医療構想に基づく将来の医療提供体制に向けて」について協議した。なお、医療計画の見直し等に関する検討会等における議論について、地域医療構想策定状況など各委員から報告があり、北海道においては、12月13日に北海道医療審議会会長である長瀬会長が北海道知事に「北海道地域医療構想」を答申し、年内に公表されること等を説明した。

14) 医師会将来ビジョン委員会 [12月15日(木)] について (太田・上埜両委員)

横倉会長より、当委員会の役割として、まずはネットワーク作りが重要であり、このつながりを将来に生かすものにしてほしいとの挨拶があった。会長諮問「医療の今日的課題に対して医師会員は何をすべきか」についての自由討論で、若い医師への医師会加入促進などについての意見があった。

15) 労災・自賠責委員会 [12月15日(木)] について (深澤副会長)

委員長に大阪府医師会・茂松会長、副委員長に小職が選出された。今期の委員会は、会長諮問を付託するのではなく、現場の意見を反映させた実務委員会として運営されること

となり、労災・自賠責に関し各地域で発生している問題の検討、必要に応じて関連団体・省庁等からのヒヤリングや担当理事連絡協議会を開催していく予定である。

(3) その他

1) 認知症に係る診断書提出命令制度について (林常任理事)

来年3月12日から施行される標記制度について説明した。なお、本件については、認知症サポート医を対象として、1月22日(日)に開催する「認知症サポート医フォローアップ研修」において、北海道警察本部交通部運転免許センター運転免許試験課より説明いただくこととしている。

4. 承認事項

(1) 日本医師会医療政策会議および健康食品安全対策委員会の委員委嘱について

(三戸常任理事)

日医から委員指名のあった、医療政策会議委員会委員に長瀬会長、健康食品安全対策委員会委員に山下理事を推薦することを承認決定。

(2) 外部各委員会等委員の推薦について

(三戸常任理事)

前回の理事会(10月8日)以降推薦依頼のあった、北海道総合政策部所管の北海道150年事業実行委員会委員に長瀬会長を推薦することを承認決定。

(3) 医療法人の役員賠償責任保険について

(岡部常任理事)

今年9月の第7次改正医療法の施行により、医療法人制度の見直しが実施されることに伴い、医療法人理事等の損害賠償責任に対応する保険制度を創設することを承認決定。

5. 協議事項

第1号 平成28年度会費減免の追加申請に関する件

(三戸常任理事)

道医会費減免申請者は一般免除者2名、研修医免除者19名の計21名で、免除額308,000円を承認し、来年3月12日(日)開催予定の第148回臨時代議員会に諮ることと決定。また、日医会費減免申請者は、高齢免除者1名、一般免除者2名、研修医免除者17名の計20名で免除額111,000円を日医へ申請することと決定。

第2号 平成29年新年交礼会〔1月6日(金)〕の開催に関する件 (三戸常任理事)

来年1月6日(金)の午後6時30分から札幌グランドホテルにおいて開催することと決定。

第3号 国民健康保険診療報酬審査委員会委員の推薦に関する件 (橋本常任理事)

現委員の任期が今年12月末日で満了となる保険医を代表する委員について、関係都市医師会、専門医会から推薦のあった保険医代表40名(委嘱時70歳未

満)を北海道知事に推薦することと決定。

第4号 北海道医師会職員給与規程等の一部改正に関する件 (三戸常任理事)

国の人事院勧告に基づき、北海道人事委員会が勧告した道職員の平成28年給与表ならびに期末手当等の改定に準じて、当会職員についても同様に今年4月1日から適用することと決定。

第5号 北海道医師会職員育児・介護休業等規程並びに職員就業規則の一部改正に関する件

(三戸常任理事)

育児・介護休業法ならびに男女雇用機会均等法の改正法が、来年1月1日から施行されることに伴い、当会就業規則等の一部改正を行い札幌中央労働基準監督署に届け出ることと決定。

第6号 理事提案事項

特になし。

6. 道総医協関連事項 (深澤副会長)

10月8日開催の第4回理事会以降の会議について報告した。

7. 閉 会

第20回常任理事会

日 時	平成28年12月27日(火)18:00～18:46
場 所	北海道医師会館9階・理事会室
出席者	長瀬会長、深澤・藤原・小熊各副会長、三戸・目黒・藤井・橋本・水谷・山科・岡部・伊藤・生駒・後藤・林・笹本各常任理事、藤瀬・篠島各監事 (事務局:安達局長ほか12名)

協議事項

第1号 母体保護法指定医師の指定に関する件

(三戸常任理事)

新規申請者2名を指定医師とすることと決定。

第2号 母体保護法指定医師研修機関の指定に関する件 (三戸常任理事)

母体保護法指定医師が指定を受けるための研修機関として、新規申請のあった2医療機関を指定可とすることと決定。

第3号 日本医師会認定産業医の認定申請に関する件 (生駒常任理事)

認定要件を満たした新規23名、更新26名の申請を承認し、日医へ申請することと決定。

第4号 日本医師会認定健康スポーツ医の認定申請に関する件 (後藤常任理事)

認定要件を満たした新規3名、更新3名の申請を承認し、日医へ申請することと決定。

第5号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件 (生駒常任理事)

申請のあった日医生涯教育講座36件、道医認定生涯教育講座34件、合計70件を承認。

第6号 その他

(1) 1月行事予定に関する件（事務局）

報告事項

1. メンタルヘルスセミナー [11月4日(金)・室蘭市、18日(金)・留萌市]について（後藤常任理事）

北海道地域自殺対策強化事業の一環として、北海道から補助を受け実施している本事業について、特に若年層に向けた内容とし、地域住民を対象に室蘭市(参加者135名)と留萌市(参加者82名)で開催した。

2. 日医理事会報告（長瀬会長）

講習会管理システム2016年度開発(会員情報との連携機能開発)の件、今年度学校保健講習会開催の件等につき協議した。理事会の詳細については日医ニュース等を参照されたい。なお、事前の理事打合会において、原子力発電所の再稼働に関する考え方について、医師は「公務員」という考え方について、重大事故のリピーターへの指導について等の意見交換を行った。

3. 日医各委員会報告（長瀬会長）

(1) 医療政策会議 [12月21日(水)] について （長瀬会長）

議長に小職、副議長に慶應義塾大学商学部・権丈教授が指名され、会長諮問「社会保障と国民経済～医療・介護の静かなる改革～」についてのフリートーキング等があった。

4. 外部各委員会報告

(1) 北海道感染症危機管理対策協議会・麻しんおよび風しん対策専門会議[12月19日(月)]について（三戸常任理事）

委員会から会議へ名称変更したことに伴う運営要領改正の説明があり、その後、座長に小職が選出された。麻しん・風しんの発生状況ならびに予防接種の状況の報告の後、意見交換を行

った。

(2) 北海道感染症危機管理対策協議会[12月19日(月)]について（三戸常任理事）

座長に旭川医科大学病院長・平田委員が選出された。先に開催した感染症流行調査専門会議ならびに麻しんおよび風しん対策専門会議の開催結果の報告の後、意見交換を行った。その後、十勝管内における高病原性鳥インフルエンザの疑似患者の発生に関する情報提供があった。

(3) 第2回離職看護職員相談事業協議会[12月20日(火)]について（深澤副会長）

看護職員の離職時届出制度を活用し再就業支援を推進するため、北海道ナースセンターの体制整備などの今年度事業の実績ならびに登録者へのアンケート調査について報告があり、来年度に向けて復職支援プログラムの策定などについて検討した。

(4) 第20回北海道救急業務高度化推進協議会[12月20日(火)]について（目黒常任理事）

北海道救急業務プロトコルの一部改正、北海防災航空隊プロトコルの一部改正、MC関係講習の見直し、指導的救急救命士制度実施要綱の一部改正、北海道救急搬送受入実施基準協議会の設置に伴う北海道救急業務高度化推進協議会設置要綱の一部改正等の5つの事項に関しそれぞれ協議が行われ、ワーキンググループでの検討結果どおりすべて承認された。その後、住田委員およびワーキンググループ・上村委員より、気管挿管実習におけるビデオ硬性挿管用喉頭鏡の中にマックグラスを含めるかどうか位置付けをはっきりさせるべきとの意見があり、事務局で整理することとなった。

北海道医師会は、 北海道に在住するすべての医師が利用できる 女性医師等支援事業を 推進しています。

北海道医師会は、医師の育児支援や仕事と家庭の両立を支援するために現役の先輩医師による相談窓口を開設しています。
この窓口は、北海道に在住するすべての医師が利用できます。
詳しくは、下記専用ホームページをご覧ください。

●相談窓口 ●育児支援 ●復職研修支援 ●介護支援

北海道医師会 女性医師等支援相談窓口

●詳しくはこちらをご覧ください 「女性医師等支援相談窓口」専用ホームページ <http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/>

●ご相談はこちらへ ☎ 0120-112-500 FAX 011-231-7272 E-mail josei-dr-shien@m.dou.jp

北海道医師会 〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目 <http://www.hokkaido.med.or.jp/>

男性医師の
アクセス歓迎

Doctor
Support